

筑波のかえる



高次脳機能障害友の会・いばらき

2021年 ～～ 冬号 ～～ 第53号



高次脳機能障害友の会・いばらき

〒305-0817

茨城県つくば市研究学園4-13-8

TEL 080-5901-9979

E-mail kojinouibaraki@yahoo.co.jp

H.P <http://nosonsohoibaraki.sunnyday.jp/>



《53号内容一覧》



はじめに	1
役員会から	2
順調です！当事者会	3
県北の広場	4
県南の広場	6
神栖の広場	8
賛助会員の声	9
関係機関訪問	
常総市社会福祉協議会	10
NPO 法人「おさだの杜」	11
がんばってる人	12
高次脳機能障害支援センターより	13
お知らせ・編集後記	14

今回の表紙は、11月の県南集会で作られたクラフト手芸の『コスモスのリース』です。材料は講師の先生が準備してくださったので同じものでしたが、出来上がったリースはよく見るとどこかが違った（花びらの並べ方や葉っぱの数・つけ方など）、個性あふれる作品になっています。（8ページに作品の写真が載せてあります。）



「新しい景色」

コロナの猛威が少し和らぎ僅かに以前の日常や経済活動に戻りつつあるこの頃、友の会の皆さまはいかがお過ごしでしょうか。

妻がくも膜下出血で倒れてから4年半ほどが経ちました。高次脳機能障害と左足の動きづらさが残っていて、リハビリと運動不足解消のために夫婦で山歩きのしたりしています。コロナ自粛で外出や散歩が激減してしまい体を動かす時間を少しでも確保しようと工夫する毎日ですが、山歩きを家族旅行と抱合せて外出するといいい気分転換にもなるため、昨年今年と自粛解除の時期に長野県の上高地や乗鞍岳の平らな道を選んでトレッキングしました。山の景色は視界が広がり気分爽快なのはもとより、そこで深呼吸する度に感じますが、妻や家族の気持ちもリラックスしたような景色に見えた気がしました。



かつて妻の退院後に高次脳機能障害という言葉を知り、その後の在宅リハビリは家族にとっては困窮と疲弊の連続でした。1年後に友の会に出会い、心が救われたと感じ何とか立ち直れた経験から、少しでも会のお役に立てればと活動しております。妻も手作り企画の集会や当事者会に参加して少しずつ楽しめるようになってきています。ただ月日を経るごとに障害の大幅な回復は見込めないことが分かってきて、将来的に家族が支援できなくなったときにはどうなるのかなどの不安も感じるようになってきました。

支援家族として、そしてコロナ禍を過ごしてきて、自らの意思通りにならない状況が続く中であらためて当事者や家族にとって大切なことを考えてみました。ひとつは、「繋がることで得られる居場所」で、友の会や支援センターに繋がることで自分の居るべき場所が理解でき安心できます。二つめは、「人とのコミュニケーション」で、交流室や当事者会で同じ経験をした人と話し共感できると気が楽になります。三つめは、「自分ができることを受け持つ」で、何でもいいので任せてもらうことを受け持つことでモチベーション（やる気）や目的意識が生まれ、少しでも自分で考え少しだけ生き活きとできるように思います。

思い通りにならない事が多い日常ですが、繋がり、話して、そしてできることを無理せず続けることで、支援家族のその時々のお悩みや将来的な不安に対しても「みんな乗り越えられる」と思える気がします。そして心が落ち着き整うことで、当事者の現在の人格をありのままに受け入れ、気持ちの中に和らぎの「新しい景色」が見えてくるように思います。

東京パラリンピックの閉会式で「日本には金継ぎという優れた文化がある」とのスピーチがされましたが、壊れた陶磁器を単に接着するのではなく、そこに金や銀を蒔き、継ぎ目の唯一無二の「新しい景色」の趣きを尊重し楽しむというものです。高次脳機能障害の特性はひとりひとりで異なりますが、その新たな人格をありのままに受け入れ、それを地域や周囲の人の協力で社会参加までも支援していくような「新しい景色」がいつか見られるように活動をしていきたいものです。

役員 本田孝男

役員会から

令和3年度 高次脳機能障害友の会・いばらき 事業予定

月	項目	会 員	役 員 会	そ の 他
12月		11日 家族会交流室 12日 県北集会 22日 神栖集会		4日 リハビリ講習会 (オンラインによる) 中旬 会報誌発行
1月		14日 家族会交流室 21日 県北家族の集い 26日 神栖集会 未定 当事者会	18日 役員会	12日~2月9日 高次脳機能障害者支援基礎講座 (オンラインによる) 未定 要望書提出
2月		11日 家族会交流室 20日 県北集会 23日 神栖集会 未定 県南集会		
3月		11日 家族会交流室 18日 県北家族の集い 23日 神栖集会 未定 当事者会	15日 役員会	中旬 会報誌発行

役員会報告

- 令和3年 9月 14日 議事 (1) 各地区集会について
(2) 要望書提出に関して・その他
- 令和3年 10月 19日 議事 (1) 家族会交流室について
(2) 当事者会・その他
- 令和3年 11月 16日 議事 (1) 各地区集会について
(2) 当事者会について
(3) 要望書について

家族会交流室からの報告

- 令和3年 9月 10日 中止
電話相談 5組
- 令和3年 10月 9日 相談者 3組 会員 6名
支援センター⇒高橋副センター長
行方市サポートセンター「いきいき」箕輪さま
- 令和3年 11月 12日 相談者 3組 会員 4名
支援センター⇒高橋副センター長



※CNは、コーディネーター (Coordinator) の略称です。

順調です!! 当事者会



当事者同士の語らい場

いつも当事者の会で「好きな食べものは玉子かけごはんです!」と、自己紹介している家族会の飛田利恵です。進行のサポートとして毎回参加しています。初めは「私に進行のサポートができるのだろうか?」と不安でいっぱいでしたが、参加者のみなさんや茨城県カウンセリングセンターの小原副理事長、言語聴覚士の加藤先生、高次脳機能障害支援センター、家族会、関係者の皆さまにお力添えをいただいて、不慣れながら務められることに深く感謝しております。

「当事者の会」は当事者と支援者が参加できる場で、2か月に1度のペースで実施しています。ご家族の方は別室でくつろいでいただいております。コロナ感染予防対策で延期したこともありましたが、12月5日の開催で7回目を迎えました。最初は慣れない場で語り合うことを不安を感じる参加者もおられたかもしれませんが、会を重ね、参加者同士で挨拶を交わすようになると、支援者がおこなっていた会場の準備や名簿・体温チェック等を参加者の皆さんが声をかけあって協力してくださるようになり、今では雑談を交えながら和気あいあいで会場を作り上げるようになりました。着席後は、「当事者会のルール」の読み上げから始まります。簡単な自己紹介後、ひとつのテーマについて語り合います。話したくないことはパスしてOK! その場から退席したくなったら自由に退席

OK! 「自分は話したくないけど、参加者のお話だけ聞いてみたい。」もOK! です。ルールに則り内容は秘密なのでご紹介できませんが、高次脳機能障害について各々の体験談に共感することあれば、思い出話に花を咲かせたり、共通の趣味で意気投合したり…と、テーマによって場の雰囲気も様々です。簡潔な語りもあれば、思いのたけを存分に語る方もいて十人十色の語りが繰り広げられています。

何回目かの会の帰り際、参加者同士が初めて次回の日程を確認している声が聞こえてきました。それまでの私は当事者会の在り方に不安もあり、右往左往していましたが参加者の皆さんの声で「当事者会の必要性」を再確認でき、不安がヒカリに変化しました。

先日の会では、慣れてきた参加者が途中入室する参加者にさりげなく声をかけて誘導する場面や、初めて参加される方に気さくに接して配慮する姿も見受けられました。「当事者の会」を有意義な会に発展させていくのは、「当事者主体」であることを会を重ねるごとに実感しています。これからも安心して本音で「悩・喜・怒・哀・楽」を語り合える当事者主体の会を、微力ながらサポートしていきたいと思っております。

最後に欲をいえば、参加者にとって物理的にも精神的にも身近な当事者会が、県内外の各地域にもっともっと普及してほしいな、と望んでおります。

【当事者のみなさまへ】当事者の会は安心安全なルールで守られているので、気軽に足を運んでいただくと嬉しいです♪

飛田利恵

高次脳機能障害の会いばらき
第7回
当事者の集會

高次脳機能障害の当事者のみなさんで集まる会の取り組みが決定しました。
今年最後の集まりとなります。皆様からのご参加を心待ちにしております。
時間を一緒に過ごしましょう!みなさんで楽しみましょう!

日時: 令和3年12月5日(日) 13:00-14:30
場所: 茨城県社会福祉会館 つうろびん2 4階
住所: 茨城県水戸市豊2町 25027-021-0405
内容: 「高次脳機能障害の経験・思いを語り合う」
協力: 茨城県高次脳機能障害支援センター
主催者: 飛田 利恵

前回の様子で「話したい!」から語り始める物もありますが、話題が加
われない方も安心してご参加できますのでお気軽にお申し込み
ください!

※参加希望の方は下記にご連絡ください。遠くにいる方のご連絡ください。
※ご参加の際は入室をご確認いただけますので、お気づきください。
※心配なこと、お聞きにならないこと、必要なサポートなどお気軽にお聞い
ただきください。

参加ご希望の方は
11月28日(日)
までにご連絡ください

連絡先: 飛田 利恵
☎090-2647-3482

県北の広場

10月に開催した第3回県北集会、11月に開催した第3回家族の集いの報告を致します。

令和3年度 第3回県北集会 10月31日(日) 13:30~14:30

場 所 : 水戸市福祉ボランティア会館 中研修室
内 容 : 新聞や広告紙で「紙てっぽう」を作ろう！
参加者 : 9名(当事者2名、家族3名、支援者4名)

8月の集会が中止となり、久しぶりの集会となりました。

今回は新聞紙や広告紙で「紙てっぽう」を《作ってみよう》《音を聴いてみよう》の内容で行われました。

小さい頃作ったことのある方も多く、「なつかしい~!」と言いながらも「どうやって作るんだっけ??」と久しぶりの折り紙に夢中になりました。

出来上がった「紙てっぽう」を鳴らしてみると、紙の質や大きさ、振り下ろす勢いによっても音に違いがあり、参加の皆さんとお互いの音を聴き合い、音の違いを楽しみました。

「たかが紙てっぽう・・・されど紙てっぽうだね~!」「音の違いが楽しかった~!」と楽しい時間に満たされました。おわりの会では「体操でリフレッシュ」。いつものようにYさんのギター演奏でハミング、Sさんのおわりの言葉で閉会しました。



感想カードより

- 紙てっぼう、おおよそ50年ぶりの体験でした。楽しくできました。
- 久しぶりに皆さんに会えて身体をほぐしたり、折り紙をしたり、短時間でも一緒に過ごすことが出来て楽しかったです。
- 「紙てっぼう」おぼろ気ながらも昔を思い出しました。作り、パンパンと大小の音を聴き、楽しいひとときでした。ストレス解消にもいいですね。
- 今と比べると昔はおもちゃがあまりなかった？・・・いや、買ってもらえなかったという方が正しいと思いますが、それゆえに自分達で遊び道具を作って楽しんでいたと思います。その一つが紙てっぼう。竹筒を使って飛ばす鉄砲等も作っていた記憶もあります。今日はとても楽しかったです。
- 久しぶりに皆様と会えて楽しい時間を過ごすことができました。やっぱり集まるって良いですね！次回も楽しみにしています。
- 童心に返って紙てっぼうを作れ楽しかったです。
- 今日は当事者のお二人から元気をいただき、ありがとうございました。本当に嬉しかった！！
- 体操を終えた時の皆さんの顔がよかった～！心も身体もリフレッシュしました。
- 参加人数が少なくなってきたことに寂しさを感じます。
- これからもみんなでいい時間を過ごしていきたいですね。



第3回 県北集会 家族の集い 報告

11月19日（金）水戸市福祉ボランティア会館 小研修室で行いました。

〈参加者7名（家族3名、支援者4名）〉

久しぶりに参加された方のお話や、ご家族の近況報告、体験を踏まえたアドバイス、次回の集会のことや今後のことについても話し合いました。

最後に支援センターの高橋さんより支援拠点についてのご報告があり、閉会しました。

今年の夏は本当にコロナに振り回されました。県南集会も7月、9月と楽しみに計画を立てながら、開催することができず、どうなることかと気をもんでいましたが、講師をお願いしていた賛助会員の風見さんのご厚意もあって、やっと11月に開催することができました。また、11月には緊急事態宣言が解除されたこともあり、かねてから希望の多かったランチ会も開催できました。

クラフト手芸(リースを作ろう！)

11月6日(土)令和3年度第2回目の県南集会が行われました。2度の延期にもかかわらず、当事者5名、家族10名、そして、つくば市在住のSTの方も見学で参加して下さい、支援者を含め、総勢17名と、思いがけない大勢の参加に、いつもの部屋は使えず、大きなホールでゆったりと楽しむことができました。こんな状況にもかかわらず今回も支援に来て下さったSTの加藤先生にも感謝です。



今回は、賛助会員でもある風見純子さんが、クラフトバンドでコスモスのクリスマスリース作りを教えてくださいました。初心者の方たちのために、忙しい中、簡単に作れるように細かな準備をしておいて下さったおかげで、すぐにかわいいコスモスの花がたくさんでき、いつものように楽しいおしゃべりをしながら、リース作りが進みました。その他、かごや小さな動物など「こんなものまで」と思うような作品も見せて下さり、クラフト手芸の奥深さに感動しました。参加者の中には、すでにクラフト手芸に関心を持たれたり、やってみたことのある方もいて、風見さんとも大いに盛り上がっていました。またお土産に小さなストラップを全員分作って下さったり本当にお世話になりました。

後日、「あれから材料をそろえて、いろいろやってみた」という方が何人もいました。今回のように、賛助会員と言う仲間内でご指導していただくというのは初めての事でしたが、素晴らしいことだと思います。またどなたか、何か一緒にやっても良いというような方がいらしたら是非お願いしたいと思います。

今回の県南集会にクラフトバンド手芸の講師として声をかけていただき、ありがとうございました。お話をいただいてから皆様のご期待に少しでも添えるような内容にするため試行錯誤しました。クラフトバンドの作品の中には、バック、小物入れ、花や季節の飾り物などいろいろあります。その中から短時間で簡単な作業でできるものとして、コスモスの花のリースをとりあげました。

当日は17名もの多くの方々に参加していただきました。リース作りについては当日になってからお伝えしたので、不安があったのですが、皆さん興味をもって楽しんで作品作りをして下さったので良かったです。

2時間という時間も足りないくらい集中して作業されている皆さんと接して、私も充実した楽しい時を過ごすことができました。

また機会がありましたら声をかけていただけると嬉しいです。ありがとうございました。

賛助会員 風見 純子

高次脳機能障害の当事者やご家族の集まる場ということで、どんな場所なのか不安と期待が混じた気持ちでしたが、この日はクラフトバンドでリースを作るイベント。外見ではそうとわからない当事者の方もいる中で、順番通りにこなすことや細かい作業が難しい方も、ご自分ができる範囲内で楽しんで作っていらっしゃるようでした。無理にお話をしないといけない雰囲気でもなく各自が手を動かしながら、それぞれのペースで隣の人とお互いのものを見せ合ったり、お手伝いしたり、終始和やかな雰囲気の集まりでした。ふとしたきっかけで今の生活の中での悩みやご家庭の中だからこそその辛さ、全く関係ないことを話す方もいらっしゃいました。普段介助をしてくださっているご家族の方も、気が紛れる場であり、同じ状況にいらっしゃる仲間にもまれていてということでの安心感もあるようでした。

外からは分かりづらい障害だからこそ、生活の場ではなかなか同じ障害の方と会うことはなく、悩みもわかっていただきにくい孤独の中で、理解者しかいない場所の安心感。思わず涙してしまうほどでした。常連さんには「元気だった？」と一番に声をかけていらして、ここが一つの居場所にもなるであろうことを体験できて、大変貴重でした。突然の参加でしたのに、暖かく受け入れてくださりありがとうございました。ぜひまた伺います。 ST

ランチ会（イタリアンレストランにて）

さて、11月24日には、家族会のランチ会が開かれました。かねてからランチ会をしたいという希望があり、今回は会員さんお勧めの守谷市の小高い丘の上のおしゃれなイタリアンレストランにしました。（私たちにぴったり？）コロナ禍でなかなか外食もままならない毎日でした。残念ながら体調悪く2名の方が欠席になってしまいましたが、総勢11名。お天気も良く、テラス席からは刈り取られた田んぼのかなたには真っ白い富士山も見えました。おいしいお料理もさることながら、中にははじめましての方や、何年ぶりかの方もいて、久しぶりに「高次脳のことや、家族のことを忘れて」昔のこと、今のことに話がはずみ、2時間と言う約束の時間が過ぎて、庭に出ておしゃべりが終わらないほど、本当に楽しいひとときを過ごすことができました。

「これからもこういった自分たちの会を開いてほしい。」「自分へのご褒美になった。」「明日から、笑顔で接することができそう。」
そんな声があちこちから聞こえてきました。皆さん笑顔も笑い声もすてきでした。本当に自分たちが癒されることの大切さを感じたひとときでした。



神栖の広場

新型コロナウイルス感染症拡大予防のため施設利用の自粛が続き、3か月ぶりの集会でした。やはり顔を合わせたの会話は弾みます。外出できないら立ち、健康管理の難しさ等、当事者のみならず家族の心労も計り知れません。吐露するだけで気持ちが楽になり、コーディネーターのアドバイスも素直に受け取れ、前に進めます。



“高次脳機能障害”の認知度が各地行政により温度差があることを体感しながら、また広報誌や会の冊子等を届けながら輪を広げて居場所作りを続けていきたいと思えます。

息子は、参加していたマラソン大会が、各地で2年続けての中止に意気消沈していましたが、市の芸術祭に写真を出展し、私の友人からお花が届きました。息子の趣味も褒めていただき、充実して過ごしています。このような励ましはとても力になり成長を見守ってくださっている環境に感謝しています。

神栖市には多くの特産物がありますが中でもお正月に使う松や千両が知られています。10月末頃から収穫が始まり門松用に出荷されます。我が家の庭でも染料が色づき日本水仙が咲きだして(温暖化の影響でしょうね。)玄関はすでに正月模様です。

皆さま、2021年、お疲れ様でした。健やかな新年を笑顔でお迎えくださいませ。

御所脇

《神栖集会の報告》10月 会員3名 支援センター(浅野CN)

11月 会員4名 支援センター(岡野CN)



賛助会員の声

つくば市 三吉 妙子

オリンピックの夏が過ぎ、コロナ禍の緊急事態宣言が解除された小春日和の休日、私は、夫と息子夫婦と一緒に太子町へりんご狩りに出かけました。

自分で採った真っ赤なりんごを手に、満面の笑みで写真に撮られる夫の姿に、私は驚きながら、どこかほっとしていました。

電気工事士の夫は、4年前の夏、仕事中に脚立から転落しました。夫の会社と真岡市の救急隊から連絡を受け、私は、高速道路を利用して片道2時間近くかかる病院へ向かいました。病院へ着くと、周りのただならぬ気配に足が震えました。診断は「外傷性クモ膜下出血」頭の中が真っ白になりました。

夫の待つ病室へ行くと私と息子たちのことはわかったものの、ベットの上で大声をだし暴れる夫の姿に呆然と立ちすくんでしまいました。夫の言動に不安な気持ちで押しつぶされそうな私は、夜になると布団の中で声を押し殺して泣きました。



幸いにも、たくさんの人のおかげで落ち着きを取り戻した夫は、1か月後、つくば市内の病院へ転院することができました。担当医から「高次脳機能障害」のお話を聞きましたが、転院後のリハビリや手術で、私は、その言葉をすっかり忘れてしまいました。

事故から三年目の春、私は長年勤めた仕事を辞めました。リハビリや手術でよくなっているはずなのに…何かが違う、なんか変、ちょっとしたことで怒り出す夫、訪問先で「帰る！」と突然言い出す夫、身体の回復と矛盾するような夫の行動に戸惑うばかりで、私はすっかり滅入ってしまいました。

そんな時、知り合いの方より高次脳機能障害の家族会で交流会をしていることを知りました。不安な気持ちを抱えつつ交流会に参加して、みなさんのお話を聞いてみると、「それある、ある」と共感できることが沢山ありました。夫の話をして、涙が止まらなくなっていた私に、「三年目ぐらいが一番しんどい時かも…」と言葉をかけてもらって、ふわっと温かなものにつつまれたような気がしました。それからは、病気で苦しんでいる夫の気持ちや、私の不安な気持ちが夫を不安にしているのではないかと思うようになりました。

また、家族会の会長様から本をお借りして「高次脳機能障害」のことが少しずつわかってくると、それまでの不安な気持ちは、しぼんでいく風船のように段々小さくなっていき、交流会でお会いした皆様へ感謝の気持ちでいっぱいになりました。

りんご狩りからの帰りの車の中で、「お父さん、また来年も一緒に来ようね！」と言う息子に、「うん！」と約束する夫は、穏やかな笑みを浮かべて嬉しそうに笑っていました。

関係機関訪問⑩

常総市社会福祉協議会（水海道事務所）

住所 常総市水海道天満町2472

電話 0297-23-2233



◇常総市社協は石下事務所と水海道事務所があります。今回お伺いした基幹相談支援センターと障がい者相談支援センターは水海道事務所内にある市民・福祉センター「ふれあい館」にありました。以前は、産業技術専門学院（職業訓練校）として使われており、歴史を感じさせる建物でした。お話は相談支援専門員の相澤恵子さんと大野尚子さんにお聞きしました。

◎基幹相談支援センター（電話 0297-25-1001）

令和2年度に市から社協が委託を受けて「ふれあい館」内に開設されました。障がいの種別に関係なく、様々な障がいに関する困りごとの相談に専門の相談員が応じます。大野さんはこの新しいセンターの相談員で、とても意欲的に活動しています。

常総市には外国の方々もたくさん住んでいます。当然のことながら外国の方からの相談も多くなりました。言葉がうまく通じないときは、市役所に配置されている通訳の方をお願いをしているそうです。

◎障がい者相談支援センター（電話 0297-23-5234）

令和2年度より、保健センターから「ふれあい館」に移転しました。就労や自立、発達に関して等、当事者や家族の方からの相談に応じています。相澤さんは、このセンターの相談員で、どんな相談にも優しく耳を傾けてくださる方です。保健センターにあった頃から子どもの発達に関する相談がとても多いという事でした。



◎心身障害者福祉センター（電話 0297-22-9400）

就労継続支援 B 型の施設になります。年齢や体力の面で引き続き雇用されることが困難になった方に対し就労や生産活動の機会を提供し、知識や能力の向上・維持等を図る福祉サービスの提供を行っています。

また、館外学習（年2回）・調理実習・誕生会（毎月）、夏祭り・クリスマス会等の社会参加活動やレクリエーション活動も充実しています。

お二人ともまだ高次脳機能障害に関する相談件数は少ないそうですが、とても関心をお持ちでした。支援センター主催の基礎講座にも、参加されたそうです。常総市においても、年に2回開催されている相談支援事業所の「連絡協議会」のような場で「高次脳機能障害」についてとりあげ、理解を深めていきたいとのことでした。実りのある訪問でした。

関係機関訪問①

おさだの杜 (NPO 法人)

住所 常陸大宮市長田1748

電話 0295-57-6500



◇茨城県北部山あいの自然豊かな地域に「おさだの杜」はあります。廃校になった長田小学校の校舎を利用しているので、広々とした庭が印象的でした。春には桜が満開になり、映画のワンシーンを見ているような光景が見られるそうです。立派な体育館もそのまま、いろいろな活動に使われているとのことでした。お話は代表の猿田さんに伺いました。



◎特別支援学校を卒業した子供たちが通う施設が県北地域にはなかったため、猿田さんたち保護者が中心になり、自分たちで立ち上げたのがこの「おさだの杜」です。廃校になった長田小が、合併した地域のちょうど真ん中に位置していたという事もあり、市長さんに掛け合って借りることになりました。

◎通所しているメンバーさんは11名、支援者は10名です。常陸大宮市の工業団地にある「未来工業」という会社から（電気製品の部品の検査や袋詰め）の仕事を戴き、それぞれ自分に合った仕事を、無理なく楽しみながらやっています。今では、未来工業さんからの信頼も厚く、仕事が途切れなく来ているそうです。

また、月に2回、地域にある「満福寺」というお寺の掃除も仕事として行っています。

◎余暇活動の時間も設けています。

火・木～小物作り（素敵なお掃除クロスは道の駅などでの人気商品です）

月・水・金～運動やウォーキング（広い体育館や運動場でのびのびと行います）



◎そのほか、市町村の委託事業として、障害のある

人や子どもの一時的預かりも行っています。また、地域の方々との交流活動（秋祭りや草刈りなど）保護者の方々の交流・情報交換なども、積極的に行っています。

代表の猿田さんは、とてもパワフルな方です。これだけの事業所を立ち上げ、軌道に乗せるまでには、おそらく想像もつかない苦労もされたと思いますが、そんなことは全く感じさせない、肝っ玉母さんでした。（猿田さんの御主人も経理責任者としてお手伝いされています）支援者の皆さんも、明るい方々ばかりで、メンバーさんたちと和気あいあいと作業をされていました。

ケンカはきれい!!

牛久市 沓脱 貴之さん

終始にこやかな笑顔でお話をしてくださった沓脱さんは、以前取材でお邪魔した「きずなPLUS」というサポートセンターに通っています。人と交わることが大好きな沓脱さんなので、毎日楽しく通っているとのことでした。



◇このサポートセンターには、週5日の午後、送迎バスで通所しています。貴之さんは体を動かすことが好きなので、ルームランナーなどで運動をすることが多いそうです。身体を動かしていると余計なことを考えず、気が紛れるそうです。(高校時代はサッカー部でした。)

◇また、STさんと相談をして、手先の訓練として現在、紙細工にも取り組んでいます。紙に印刷された動物の図案をははさみで切り取り、糊を使って動物を作り上げていきます。帰り間に、出来上がった作品を見せていただきました。



◇貴之さんは7年前にモヤモヤ病の発作を起こし、高次脳機能障害が残ってしまいました。多くの人と同じように、短期の記憶障害がありますが、お母様がしている寝たきりのお父様の介護を手伝っています。貴之さんは、介護福祉士の資格をもっているのです。オムツの交換などもお手の物です。頼りがいのある右腕となって、お母様をサポートしているそうです。

「親子三人で生活していて、ケンカとかしないの?」と、お聞きしたら、「僕はケンカはきれいなんです。だって僕が怒って爆発したら、周りがかわいそうでしょう?」とのこと。後日、お母様にお聞きすると「あの子は、人が悲しむのを見ているのがとても嫌みたいです。小さいときから、いつも自分が我慢をしてしまう子でした。」とのことでした。ずっと笑顔で対応してくださった理由がよくわかりました。

高次脳機能障害支援センターより

茨城県高次脳機能障害支援センターホームページのご紹介

茨城県高次脳機能障害支援センターのホームページでは、高次脳機能障害に関する情報や研修会を始めとして、様々な情報を発信しています。高次脳機能障害を持つ当事者・ご家族はもちろん、日々支援をしている支援者の方々にも参考になる制度の情報や事業所・医療機関の情報も発信しておりますので、ぜひご覧いただき、有意義にご活用下さい。

コンテンツ	内容
★資料ダウンロード	支援センターパンフレットや小冊子「高次脳機能障害と言われたら」、症状チェックリスト等がダウンロード可能です。他にも精神障害者保健福祉手帳の診断書記入例や、障害年金の申請書や申請時の留意事項等も掲載しております。
★診断基準	医療機関において、高次脳機能障害の診断を受ける際に必要となる4つの要件について、解説しております。
★支援制度	障害者総合支援法（障害福祉サービス等）や障害者手帳制度、障害年金、介護保険制度等についての紹介をしております。
★研修会	支援センター主催の研修会や支援機関・施設連絡会等の予定や情報を発信しております。
★高次脳機能障害支援協力病院	高次脳機能障害の診断等に関して、茨城県内でご協力いただける医療機関の情報をまとめております。各医療機関により、診療や提供サービスが異なりますので、予めご了承ください。
★高次脳機能障害支援マップ	高次脳機能障害者へのサービス提供が可能な障害福祉サービス事業所の情報をまとめております。今後も掲載期間を増やしていく予定ですので、
★高次脳機能障害支援ツール	当事者の生活のサポート、情報記録ツールとして使用が可能なツール様式を掲載しています。また、家族や支援者が日々支援する際に使用できるツールも併せて掲載しています。

上記以外にも高次脳機能障害に関してよくある疑問や質問をまとめたQ&Aや、センター職員（高次脳機能障害支援コーディネーター）が依頼に応じて各地で研修会を実施するモバイル講座の案内等の情報もまとめております。下記QRコードを読み取ってアクセスしてみてください。

また、上記の情報については、茨城県高次脳機能障害支援センター公式Twitter「@iba_koujinou」でも発信しておりますので、ご興味のある方はぜひフォローをお願いいたします。

【センターHP】



高次脳機能障害に関する
相談については、高次脳機能障害支援
センターへぜひお問い合わせ下さい。
電話番号：029-887-2605



お知らせ

高次脳機能障害支援センター 基礎講座のご案内

令和3年度 茨城県 高次脳機能障害者支援 基礎講座のお知らせ

1. 茨城県高次脳機能障害者支援基礎講座について
茨城県高次脳機能障害支援センターでは、脳卒中や脳外傷等の後遺症である高次脳機能障害の普及啓発、支援に必要な基礎知識及び技能の習得を目的に、基礎講座を開催しています。今年度も昨年度に続き、オンラインによる講義動画配信での開催となりました。知識や専門資格がない一般の方でも、わかりやすい内容となっています。どうぞお気軽にご受講ください。
内容は昨年度と共通のものもありますが、就労支援や機能訓練といった新しい講義内容も用意いたしました。また、センター職員による質疑応答の時間も設定しましたので、ぜひ積極的にご参加いただければと思います。これまでに受講経験のある方や支援サポーターとして登録された方も、復習やステップアップの機会にぜひご受講ください。
2. 対象 (1) 高次脳機能障害支援に関心のある方
(2) 地域における障害者福祉に熱意のある方
(3) 過去に基礎講座を受講し、支援サポーターとして登録のある方
※資格、経験の有無を問いません。
3. 日時 動画配信期間：令和4年1月12日(水)9時～2月9日(水)17時
youtubeによる動画配信を各自視聴していただきます。
質疑応答受付日：令和4年2月4日(金)13時30分～15時
高次脳機能障害支援センター職員が質問に回答します。
オンライン会議システム(Webex Meetings)を使用します。
4. 内容 別表のとおり
5. 申込方法 別紙様式第1号「基礎講座申込書」へ必要事項を記入の上、
FAX(029-887-2655)またはE-Mail(koujinou.sien@pref.ibaraki.lg.jp)
でお申込みください。
申込み〆切り：令和4年1月5日(水)必着
後日動画視聴のためのURL等の案内を送付します。
6. 問い合わせ
茨城県高次脳機能障害支援センター (稲敷郡阿見町阿見4669-2 茨城県立医療大学内)
電話：029-887-2605 ※受付時間：月曜日～金曜日(祝日・年末年始除く) 8時30分～17時
E-mail：koujinou.sien@pref.ibaraki.lg.jp



令和3年度 茨城県高次脳機能障害者支援基礎講座 次第

別表1

日時：動画配信期間：令和4年1月12日(水)9時～2月9日(水)17時(Youtube 使用)
質疑応答受付日：令和4年2月4日(金)13時30分～15時 (Webex Meetings 使用)
会場：web 開催(Youtube による動画配信およびオンライン会議システムによる質疑応答)。
申込みいただいた方に対して視聴 URL をメールにて送付します。

内容：

研修テーマ	講師	時間
高次脳機能障害支援センターの紹介	高橋由紀 (高次脳機能障害支援センター 副センター長)	30分
高次脳機能障害とはどのような障害か	大神功一先生 (センター嘱託医・ リハビリテーション専門医)	60分
高次脳機能障害への対応及び 福祉サービスと制度について知る	寺門 典氏 (志村大宮病院 リハビリテーション事業部)	60分
高次脳機能障害支援に関わる 福祉サービスと制度について知る	高松麻実子 (高次脳機能障害支援センター)	45分
高次脳機能障害者の就労支援について	山中俊広 (高次脳機能障害支援センター)	45分
高次脳機能障害支援ツールの紹介	浅野ゆかり (高次脳機能障害支援センター)	30分
家族支援について知る 当事者の体験談に学ぶ 家族会活動紹介 当事者の会について	高次脳機能障害者の会いばらき 滝沢静江氏 高次脳機能障害当事者、家族	60分
質疑応答(WebexMeetings 使用) 日時：令和4年2月4日(金) 13時30分～15時 ★事前質問〆切：1月28日(金)	高次脳機能障害支援センター 職員	60分

【注意事項】

- 動画視聴のための利用環境の確保及び通信にかかる費用は各参加者の負担となります。
- 定額制の通信プランを利用できる機器での参加を推奨します。
- 講義動画の録音・録画・ダウンロードならびに講義資料の複製等の二次使用を固く禁止します。

★講師からの質問の回答を希望する方は、1月28日(金)17時 までにセンターまでメール等でご送付ください。<宛先：koujinou.sien@pref.ibaraki.lg.jp>

《編集後記》

「ユニバーサルデザイン(UD)フォント」ってご存知でしょうか？

今回、「編集後記」にこの「UDフォント」を使ってみました。ユニバーサルデザインとは、出来るだけ多くの人々が利用できるようなデザインを基本としたもので、「文字の形が分かり易く、読み間違えにくい」のが特長なのだそう。

一般の人はもちろん、お年寄りや、障害者の方、外国の方などにも使いやすいということです。また、乱視や弱視、老眼、白内障によって見えにくいという方々なども救うべく開発されたフォントなのだそう。

茨城県では行方市が初めてこの UD フォントを使い始めたということです。この会報でも、近い将来、そうしてみようかな・・・と思っているところです。いかがでしたか？読みやすかったですでしょうか？

